



## 新年明けまして おめでとうございます。



新年明けましておめでとうございます。  
住民の皆さまには、輝かしい新春をお迎  
えのこととお慶び申し上げます。

平素は、町政に対しまして、ご支援、ご  
協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、国においては、デフレから早期に  
脱却し日本経済を再生するため、「アベノ  
ミクス」が推進され、日本経済を支える企  
業の業績も回復傾向にあり、今後は、企業  
の賃上げや設備投資による本格的な景気回  
復が待たれますが、4月から実施される消  
費税の引き上げによる影響が懸念されるこ  
ろです。

一方、町の財政状況については、人口の  
減少や高齢化等により、町税が平成24年度  
決算において約21億4千万円（前年度比約  
9千万円の減）となり、国からの各種交付  
金や譲与税についても減少傾向にあること  
から、経常的な財源は減少し、また、歳出  
についても、施設の維持補修や権限移譲等  
により経常的な経費が増加しているため、  
厳しい財政運営が続いています。

そのため、財政再建計画を策定し、平成  
22年度から財政の健全化に取り組み、人件  
費の削減や施設の統合等を進めてまいりま  
したが、町税の減少が続く中、安定した行  
財政運営を行うまでには至っておらず、現  
在、財政の健全化に向け、新たな計画の策  
定に取り組んでいるところです。新たな計  
画については、改めて住民の皆さんにお示  
してまいりますので、ご理解、ご協力賜  
りますようお願いいたします。

また、町税が減少する要因のひとつとし

て、人口の高齢化が進み、子育て世代が減  
少していることが考えられることから、昨  
年、「とよのに住もう」のパンフレット  
を作成するとともに、ホームページにもコ  
ーナーを設け、子育て支援策など町の魅力  
ある施策や町の最新の不動産情報を発信  
し、若い世代の定住化を促進し、まちの活  
性化を図るよう努めているところです。

今後は、町のイメージキャラクターとし  
て誕生した「とよのん」を有効に活用し、  
町内外のイベントにおいて町の魅力を積極  
的に発信し、町のイメージアップや活性化  
に努めてまいります。

さらに、昨年7月には、ふるさと寄付を  
リニューアルし、一定額以上の寄付をいた  
だいた方に豊能町の特産品をプレゼント  
することとしたところ、11月までに、約  
380万円、約200件（平成24年度8件）  
の寄付をいただくことができました。ふる  
さと寄付については、パンフレットを今月  
号の広報とともにお配りしていますので、  
帰省された方や帰省先等でPRいただきま  
すようお願いいたします。

また、昨年は、大型台風が上陸し、京都  
府や滋賀県等に特別警報が発令され、伊豆  
大島では土砂災害により多くの方が犠牲に  
なるなど、全国各地に大きな被害をもたら  
しました。

災害はいつどこで起こるかわからず、町  
では、今年度から、防災出前講座を実施し、  
地域防災力の向上を図るとともに、災害発  
生時に生活物資や燃料、避難所物品等を確  
保するため、事業者の皆さんと食糧や日用

品、燃料等の供給に関する応援協定を締結  
しているところであり、今後とも、防災体  
制の充実に努めてまいります。

さらに、懸案となっているダイオキシン  
問題につきましては、これまで処理できず  
高山地区で保管してきたダイオキシン類汚  
染物を昨年10月に移設しましたが、今回の  
移設については、長期の保管を前提とした  
ものではなく、早期に処理することを目指  
し、一時的に保管するものであり、今後、  
一日でも早く処理できるよう努めてまいり  
ます。

ダイオキシン問題の解決は、豊能町・能  
勢町にとりまして最大の課題であることに  
、長年の懸案事項でありますので、早期  
の解決に向け、地域全体で取り組めるよ  
う、より一層、皆様のご理解、ご協力を  
お願い申し上げます。

終わりになりましたが、これからも、住  
民の皆さまに住んでよかったと思われるま  
ちづくりを進めるとともに、将来にわたり  
安心して暮らせるまちづくりの推進に努め  
てまいりますので、本年も、町の行財政運  
営にご支援ご協力をお願い申し上げます。  
新年が皆さまにとりまして素晴らしい一  
年となりますようお祈り申し上げ、年頭の  
ごあいさつといたします。

平成26年1月1日

豊能町長 田中 龍一



# 新年明けまして おめでとうございます。



新年あけましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお喜びを申し上げます。日頃より、町政発展のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年9月に町議会議員一般選挙が行われ、10月8日から新人3名を含む14名の議員による新たな議会がスタートしました。

私も議長に就任して早くも約3カ月が過ぎました。新春を迎え、豊能町の発展のために、引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしています。

平成24年12月に行われた衆議院議員総選挙において政権交代が行われました。安倍政権の経済政策「アベノミクス」に対する期待感もあり、為替相場の改善、株式市場の活況等の効果もあり、平成25年度、企業の間決算発表を見ても、業績の回復傾向が顕著にうかがわれ、日本経済の先行きに明るさが見えてきたような感もあります。

今後は、働く人の賃上げや雇用の拡大に踏み切り、家計が潤えば個人消費が増え、中小企業や地方自治体にとっても財政面や町の活力等についても期待が出来ます。

スポーツの分野でも明るい話題がありました。東京オリンピック・パラリンピックが7年後の平成32年の開催が決まりました。

フットボールにおいても、東北楽天ゴールデンイーグルスが球団創立9年目で初めて日本一を達成、東北地方の被災地の皆さんにとって、大きな勇気と希望になったことと思います。

一方、昨年10月には伊豆大島で台風26号接近による集中豪雨で土石流が発生、甚大な被害をもたらしました。

あらためて町民の皆さまの安全安心な暮らしを守るための、防災対策の重要性を痛感したところです。

議会としても平成25年7月に制定した議会基本条例の第4条に危機管理について規定、議員は災害発生時には積極的に協力することとしたところです。

豊能町の現状は、少子高齢化とともに人口の減少が続くなど困難な課題に直面しています。この状況が続くことになると、町財政の弱体化や町の活力の低下等、その影響ははかり知れないものがあります。

このような状況を打開するためにも、行政と議会がともに英知を結集、議論を尽くして、町づくりに挑戦していくことが重要と考えています。

少子高齢化については、子育て支援の充実、特に女性が就業につきやすい環境の整備が必要とします。

高齢になっても安心・安全に日常生活を送っていただけるよう、福祉の充実や交通機関の利便性の向上に向けて、関係機関に働きかけてまいります。

人口減少の問題では、豊能町の強みである自然環境や都心に比較的近い立地・教育力、さらに近くに大学開校の計画や新名神のインターチェンジも予定されています。これらを、町内外に情報発信していくことも大切とします。

昨年11月10日の「とよのまつり」開催時に、イメージキャラクター「とよのん」の披露が行われました。豊能町のイメージアップに向けて、今後の活躍に期待するものです。

こうした、豊能町の特徴を最大限に活用して、魅力のある町づくりを実現し、定住化や

転入促進に努めてまいります。

豊能郡環境施設組合の長年の懸案であり、ますダイオキシンの無害化処理については、その殆どがこれまでに関係者の努力で進められてきました。しかし、ドラム缶、198本が未処理のまま残っています。昨年10月まで高山地域の皆さまのご理解の下、保管させていただきます。

そして、旧消防本部倉庫に保管場所を移しました。今後は一日も早く無害化処理を終えるよう議会としても協力し、豊能町の発展に向けて努めてまいります。

町議会は二元代表制の下で、町長、その他の執行機関との立場や権能の違いを踏まえ、常に緊張感ある関係を保ちながら、町民の皆さまの福祉の向上および町政の発展に寄与していかねばなりません。豊能町議会としましては、「豊能町議会基本条例」に掲げる基本方針の下、行政への監視および議会報告会の試行や一般質問のインターネット中継放映など、議会機能の一層の充実強化に取り組んでまいります。

今後も、さまざまな町政の課題に向け、しっかりとした議論を重ねるとともに、町議会の改革と活性化に引き続き取り組みながら、町民の皆さまの期待に応えるべく、誠心誠意尽くしてまいります。

新春に臨み、町民の皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆さまにとりまして幸せで実り多く、大いなる飛躍の年となりますことを心よりお祈りし、新年のごあいさついたします。

平成26年1月1日

豊能町議会議長 竹谷 勝